中国の新しい油田

岸本文男（鉱床部）
Fumio KISHIMOTO

中国の産油量は1979年に1億600万tで　1978年の1億200万tのわずか3.9%しか伸びていないことから　その石油生産がようやく頭うちになってきた　と報じられている．　それを裏づけるかのように　今年に入って中国は対日輸出契約量の引きさげを非公式に伝えてきた．1980年に800万t　1981年1,000万t　1982年に1,500万t　そして年々増大して1985年には3,000万t以上とするという契約で　そもそもは中国側からのたっての頼みであった．　それは　中国産の原油がパラフィン分40%というような質の悪いものであるため　日本の精油所や電力会社が引きとりを渋ったからである．

当面は契約通りということで　中国からの打診はおさまったようであるが　実のところはあいまいである．いつ中国が変心するか　誰もわからないというのが実体であろう．

このような動きの中で　1980年3～5月　中国は北京放送や雑誌≪人民中国≫などを通じ　新しい油田として遼河油田　東濮油田と柴達木盆地の1油田の概況を報道した．

遼河油田：　この油田は遼河の下流にあって　営口市の西　錦州市の東　瀋陽市の南を境とする堆積盆地内に分布する天然ガス田油田群の総称で　行政区劃では遼寧省に入る．

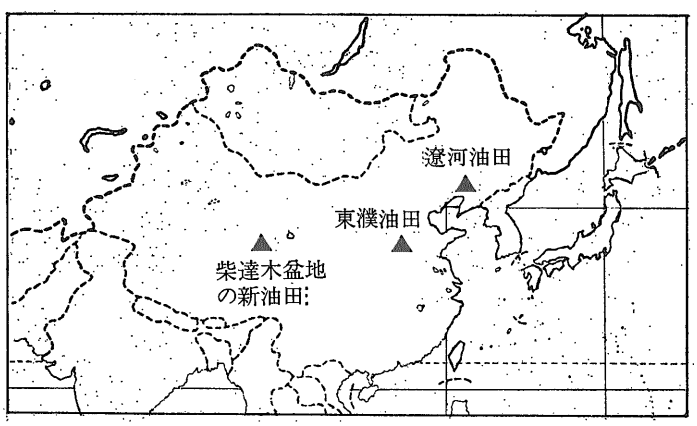
すでに生産が始まっていて　その年産能力は原油500万t　天然ガス17億m^3であるが　実際の生産量には触れていない．　現在の油井など井戸の数はおよそ1,800井　石油・ガス計量ステーションと集積・輸送ステーションの数は160をこえ　8採油区に分けられている．石油と天然ガスの埋蔵量は「膨大」で　油層の厚さ（油柱?）は最大の油層で100mばかりあり　日産　数百tの油井が数本あるという．　油質は低硫黄で　軽溜分も多いと報じているが　その表現からみると　中質原油か中重質原油と思われる．

東濮油田：　この油田は黄河の下流の山東省と河南省の省境付近にあって　黄河両岸の9県（東平　梁山　鄆城　鄄城　濮城　范県　陽穀　東阿　平陰の各県と思われる）にまたがる油田群である．　油田の名称はこの油田の中心地である（?）東平と濮城（濮県ともいう）の頭をとったものであろう．

現在　開発工事が急ピッチで進められ　すでに採油井・注水井・試掘井など200井以上が掘進を終り　地下パイプラインが200km以上敷設ずみで　石油・ガス計量ステーションが13か所　原油集積・輸送ステーションが2か所完成している．　油質は低硫黄の中質原油ないし中重質原油らしい．

柴達木盆地の新油田：　この油田は青海省柴達木盆地の西南部　海抜3,000m　あまりの高寒地にあるとのことだから　大武寺－茫崖－甘森－塔爾丁－烏図美仁を結ぶ線の南側のいずれかに相当するだろう．　とすれば既存の油沙山油田の東南に隣接する新油田か　さもなければ　鴟鴞泉油田・獅子溝油田・油沙山油田群の東南に独立した新油田群ということになる．

まだ　正式名称はないが　すでに26か所で試錐が行われ　うち20か所で油層ないし天然ガス層　天然ガス・油層が確認されている．　2本の試錐井での計量（1は1か年　1は4か月）によるといずれも原油約100t/日　天然ガス約10,000m^3/日という結果であった．　層圧が高く　原油の比重が小さく　1井当りの産出量が多いと考えられ近く正式に開発に移行するとのことである．



中国の新油田